

文庫本で読める唐津の魅力（1/2）

～日本で一番好きな町 唐津へ ―― 嵐山光三郎ほか～

分野

文化

◎地図・写真・統計資料など

■田山花袋『温泉めぐり』岩波文庫

「唐津一帯の風光は、九州島では多く他にその匹（ひつ）をみることの出来ないようなものであった。私は西の浜の海水浴に一夜泊って、すぐ引返すつもりで出かけて行ったが、あまりにあたりの海山の眺めが美しいので、旅情を促されて、更に深く半島の奥をきわめるために呼子港まで行った」

■宮脇俊三『時刻表2万キロ』河出文庫

「東唐津でいったん筑肥線の下り列車から降りてタクシーで西唐津までとばし、唐津線の上り列車に乗って山本に至り、東唐津で乗り捨てたはずの筑肥線にふたたび乗りこもうというものである」

■團伊玖磨『パイプのけむり』小学館文庫

「僕が最も美味と思うのは、上海の大闸蟹と、ここ玉島のずがに、結局同じ藻屑蟹である」

■高橋是清自伝『高橋是清自伝・上』中公文庫

英語の先生「唐津の藩主は東京に引越すことになり・・・お城の御殿は幾程もなく耐恒寮（英学校の名）と変わってしまった。

■司馬遼太郎『街道をゆく一肥前の諸街道』朝日文庫

「たしかにこの松原は海と浜と岬の美しさとかかわりつつみごとなものであるが、なによりもすぐれているのは名称といていい。虹という、多少甘ったるい言葉が、これほどありありと生きている例を他に知らないのである。」

■森浩一『食の体験文化史』

■嵐山光三郎『ローカル線温泉旅』講談社現代新書 P.216～221

「日本で一番好きな町、唐津へ」

～2/2へつづく～

◎引用・参考文献（出典）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html

文庫本で読める唐津の魅力（2/2）

～日本で一番好きな町 唐津へ ― 嵐山光三郎ほか～

分野

文化

◎地図・写真・統計資料など

～1/2からつづく～

■佐藤隆介・筒井ガンコ堂 編『池波正太郎 梅安料理ごよみ』P.252

「北九州の呼子という小さな漁港の料理屋で食べた鯛茶漬の味も忘れられない。」

■北方謙三『君はいつか男になる』光文社文庫

「ぼくが生まれ、育ったのは、唐津という玄海灘に面した街のはずれにある小さな村だった。」

■子母澤寛『味覚極楽』中公文庫

「あの頃、小笠原長生さんの千駄ヶ谷の屋敷には3日にあけず邪魔していた（昭29.9.9）」

その他

- ・嵐山光三郎『日本百名町』光文社知恵の森文庫
（九州から16町 唐津市中町が入っている。）
- ・嵐山光三郎『温泉旅行記』ちくま文庫
「ぼくには猫にマタタビのような唐津の町」洋々閣 隆太窯 朝茶事
- ・嵐山光三郎『文士温泉放蕩録』―五足の靴― ランダムハウス講談社文庫
「唐津へ行き、一行は講演をした。奎太郎は口べたで話が長く客から「話が長すぎる」と野次られた。すかさず白秋が代って・・・」
- ・内田康夫『佐用姫伝説殺人事件』徳間文庫
- ・津村秀介『霧の旅 唐津の殺人』祥伝社文庫
- ・森村誠一『タクシー』角川文庫

◎引用・参考文献（出典）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html